



2023年ゴルフ規則改訂の概要

2023年ゴルフ規則改訂は2019年の大改訂以来の改訂となります。2019年の大改訂を除き、ゴルフ規則は4年に1度改訂をされてきており、2023年はその4年に1度の改訂サイクルに基づいたものとなります。通常、4年に1度の改訂はマイナー改訂となりますが、2019年に大改訂された規則に対する初めての改訂となるので、通常のマイナー改訂よりも多くの改訂がされているのが特徴です。以下に主要な変更点と解説を記載いたします。

一般的なこと

1. プレーヤーズ版の廃止

2019年に誕生したプレーヤーズ版は廃止され、その代わりとしてゴルフ規則のアプリが拡充されます。この R&A のゴルフ規則アプリは無料でダウンロードすることができ、言語を選べば日本語版のゴルフ規則を閲覧することができます。ビデオやクイズなども日本語訳が掲載され、検索により知りたい規則を簡単に見つけることができます。

このアプリの拡充は、環境に配慮した取り組みであることと、ゴルフの近代化を反映しています。この R&A のゴルフ規則アプリは12月中旬にリリースされる予定となっています。

2. ゴルフ規則書とゴルフ規則のオフィシャルガイド

ゴルフ規則のアプリが拡充されても、より専門的に規則に携わる委員会のメンバーやレフェリーのために、本としてのゴルフ規則書とゴルフ規則のオフィシャルガイドは発刊されます。ゴルフ規則書は年内に販売され、ゴルフ規則のオフィシャルガイドは2023年2月頃に販売する予定です。

3. 障がいを持つゴルファーのためのゴルフ規則の修正



障がいを持つゴルファーがゴルフゲームをプレーする際に必要な規則についてはこれまでゴルフ規則書ではなくオフィシャルガイドの巻末に掲載されていました。2023年規則ではこの修正規則がプレーの規則の25条として掲載され、すべての競技に適用されることになりました。

プレーの規則

規則1.3c(4) 複数の規則違反に対する罰の適用

プレーヤーが異なる規則に複数回、または同じ規則に複数回違反してしまった場合、罰を重課するのかどうかを扱うこの規則は、複数の規則違反の間に介在する出来事が存在するかどうかによって決定することになりました。2019年規則ではその複数の違反が関連するかどうかについても決定する必要があり複雑でした。2023年規則に規定された「介在する出来事」は①ストロークの終了、または②違反に気づいた場合、の2種類あります。

例えば、バンカー内で練習スイングをしてクラブヘッドが砂に触れた場合、ストロークプレーでは2罰打を受けます(規則12.2)。プレーヤーが何度も練習スイングをしてその度にクラブヘッドが砂に触れた場合、何罰打となるのかは介在の出来事があったかどうかによります。例えば、練習スイングをして砂に触れた後にストロークを行いました、バンカーから球が出ませんでした。そしてまた練習スイングをして砂に触れた場合、「ストロークを終了した」という介在の出来事があったので、別々の規則違反をしたことになり、2罰打+2罰打で合計4罰打を受けることになります。

規則3.3b(4) スコアカードにハンディキャップを示すこと、またはスコアの加算をすることはプレーヤーの責任ではない。

2019年規則ではハンディキャップ競技においては、スコアカードに自分のハンディキャップが正しく示されている(記入されている)ことはプレーヤーの責任であり、もし誤ったハンディキャップが記入されたスコアカードを提出した場合、プレーヤーは失格となる可能



性がありました。2023年規則では、スコアカードにハンディキャップを示すことはもはやプレーヤーの責任ではなくなり、委員会側の責任になります。委員会はそのプレーヤーの正しいハンディキャップを確認し、それを正しく計算してネットスコアを算出する責任があります。

規則4.1a(2) ラウンド中に損傷したクラブの使用、修理、交換。

2019年規則ではラウンド中にクラブが損傷した場合、特別な状況を除き、取り替えることが認められませんでした。2023年規則ではプレーヤーがクラブを乱暴に扱ったことが原因でなければ、ラウンド中に損傷したクラブを取り替えることができます。

規則4.1a(3) ラウンド中にクラブのプレー特性を故意に変えること。

2019年規則ではラウンド中にクラブのプレー性能を変えても、調節できる機能についてはストロークを行う前に元の位置に復元されたクラブは罰なしに使用することができると規定されていましたが、認められない外部付属物をつけたことによって特性が変えられたクラブについては言及されていませんでした。2023年規則ではこの認められない外部付属物をクラブにつけた場合もストロークを行う前に取り除けば、罰なしにそのクラブを使用することができることを明記しました。

詳説4.3a/1 グリーンリーディング資料を使用することの制限

2019年規則では、グリーンリーディング資料についてはサイズと縮尺の制限があり、規則の要件に該当しない資料をパッティンググリーン上でストロークするときと、パッティンググリーンを狙うためにパターでプレーするときのために使用した場合は違反となりました。2023年規則ではこの制限はパッティンググリーン上でストロークをするために使用する場合だけとなります。

規則6.3b 間違っ取り替えた球

規則で球の取り替えが認められていないのに、取り替えた球をプレーした場合の罰は2019



年規則では一般の罰(ストロークプレーでは2罰打、マッチプレーではホールの負け)でした。2023年規則ではこの罰が軽減され、違反の罰は1罰打となります。

例えば、パッティンググリーン上で球をマークして拾い上げた後、ポケットに入っていた別の球をリプレースしてプレーした場合、プレーヤーは1罰打を受けることになります。

規則8.1d(2) 球が止まった後に悪化した状態の復元

プレーヤーの止まっている球のライやスタンスの場所などがプレーヤー以外の人によって悪化した場合、プレーヤーはできる限り元の状態に復元することができますが、もし、レフェリーがプレーヤーの球のライやスタンスの場所を悪化させた場合(例えば、バンカー内で球を捜索するのを手伝っていた)、復元できるのかどうか2019年規則では不明確でした。2023年規則では復元が認められない規定の中でレフェリーを除くことを明記しました。

規則10.2b(1)(2) 他の援助

2019年規則ではプレーの線を示すために物を置くこと自体の禁止はパッティンググリーン上の球をプレーする場合に限られていました。2023年規則ではコース上のどのエリアであってもプレーの線を示すために物を置くことはできず、そのような物を置いた時点で一般の罰を受けます(ストローク前に取り除いても罰を免れることはできません)。

規則9.3 自然の力が動かした球

2019年規則ではパッティンググリーン上での特定の場合を除き、止まっている球が自然の力によって動いた場合は、新しい位置からプレーをしなければなりませんでした。例えば、プレーヤーがペナルティーエリアの救済処置に基づいてドロップした球が一旦止まり、救済が完了した後に、風や傾斜によってその球が動いてそのペナルティーエリアに入った場合、プレーヤーは新しい位置からプレーするか、それができなければさらに1罰打を追加してペナルティーエリアの救済処置をとるしかありませんでした。2023年規則では、ドロップ、プレース、リプレースした球が止まった後に、他のコースエリアやアウトオブバウンズに転がって行って止まった場合、プレーヤーはその球を罰なしにリプレースしなければ



ばなりません。

詳説10.2b/1 自立式パターについて

2023年規則の詳説では、自立式パターについて説明しています。自立式パターが用具規則に適合していれば、ストロークを行うために使用することができます(規則4.1a(1))。しかし、プレーヤー(またはそのキャディー)はそのようなパターを規則10.2bに違反する方法による援助を得るために置くことはできません。

例えば、プレーの線を示したり、規則10.3b(3)に違反してストロークのためのスタンスをとる際にプレーヤーを援助するためにパッティンググリーンにある球の直後やすぐ近くにそのパターを立てて置くことはできません。

規則10.2b(4) プレーヤーがストロークを行う前にキャディーに対して制限される区域

2019年規則ではプレーヤーがスタンスをとった後にキャディーが後方に立つことを禁止していました。しかし、どのような場合に違反となるのかについて複雑な問題を引き起こしました(例えば、スタンスをとったとされる時点は?など)。そして詳説が示され、この規則の運用に関する説明がなされていましたが、2023年規則ではその詳説を規則の規定に組み入れ、「制限される区域」についても明確にしました。2023年規則においてもプレーヤーが目標を定めるために「制限された区域」にキャディーが立つことは引き続き禁止されています。

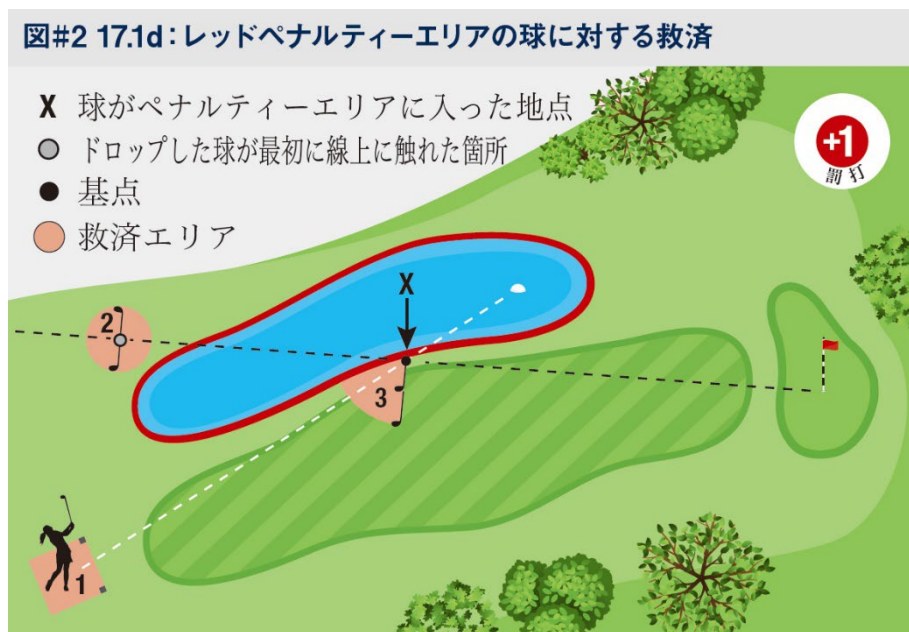
規則11.1b(2) パッティンググリーンからプレーされた球が人、障害物、動物に偶然当たる

2019年規則では、例えば、パッティンググリーン上でストロークした球が虫に当たった場合、罰なしに再プレーをしなければならませんでした。2023年規則では虫に当たった場合は再プレーをせずにあるがままにプレーをしなければならないことを規定しています。また、プレーヤー以外の人や動物に当たった場合は再プレーをしなければならず、再プレーをしなかった場合は誤所からのプレーにはならず、一般の罰を受けることを明記しました。

後方線上の救済の救済エリア

2023年規則では、ペナルティーエリアからの救済やアンプレヤブルの救済などの選択肢である後方線上の救済の救済エリアが変更されました。

新しい後方線上の救済エリアはプレーヤーが基準線上に球をドロップした地点を基点としてどの方向にも1クラブレングスの範囲となります。例えば、ペナルティーエリアの救済の場合は下記図の2のようになります。



規則16.3b 地面にくい込んだ球の救済

2019年規則では地面にくい込んだ球の救済エリアの基点をジェネラルエリアに制限することが規定されていませんでした(救済エリアはジェネラルエリアに制限されるが)。このことは、地面にくい込んでいる球の直後にジェネラルエリアが存在しない場合に救済エリアを決められない問題を生じさせました。2023年規則では、基点はジェネラルエリアに決めなければならないことと、もし球の直後でジェネラルエリアがない場合はホールに近づかない最も近い所を決めることを詳説で説明しています。



詳説18.2a(1)/3 球が紛失となる場合

2019年規則では球を見つけてから、その球が自分の球であるかどうかを確認するために球の所に行く時間を含めた合理的な時間が許されていました。例えば、球を捜索してから2分50秒経ったときに、プレーヤーがいる場所から100ヤード先の林の中で球が見つかりましたが、その球がプレーヤーの球であるかどうかを確認するためにその場所に行くと球の捜索時間の3分を越えてしまう場合があります。この場合、球の所まで行き、確認するための合理的な時間が認められるのですが、この時間について2023年規則では1分間であることを詳説で説明しています。

(公財)日本ゴルフ協会 規則委員会